



教育に関する子供・若者の 意見聴取フィードバック

ちょうしゅ

2025年12月
愛知県教育委員会



教育は
未来へつなぐ
希望の輪

目次

はじめに P2~P3

意見聴取の方法

Webアンケート P4

ワークショップ P5

子供読書調査 P6

フィードバック

子供の意見聴取に関すること P7

学校のルールに関すること P8

授業に関すること P9~P10

友達に関すること P11

先生に関すること P12~P15

相談に関すること P16~P17

部活動に関すること P18

給食に関すること P19~P21

I C Tの活用に関すること P22~P24

学校施設に関すること P25~P26

登下校に関すること P27~P28

防災に関すること P29

地域との交流に関すること P30

読書に関すること P31~P33

生涯学習に関すること P34~P35



はじめに

第五次愛知県教育振興基本計画策定のためにたくさんのご意見をいただき、
ありがとうございました。

Webアンケートやワークショップでいただいたご意見はすべて確認して、愛
知県のこれから計画や取組に反映できるかどうかを検討しました。

みなさんの意見は、7ページから以下のとおり整理しています。

主な意見	みなさんからいただいた意見
こう受け止めました	愛知県教育委員会としての意見の受け止め方
反映したところ	第五次愛知県教育振興基本計画における基本施策への反映部分

このフィードバックでは、みなさんにとって
何が一番よいことを考えた結果を記載してあります。
これからも子供・若者の声を真剣に
受け止めますので、自分の考えを大切にし、
積極的に意見を表明してください。

計画に反映できなかった意見、
この資料に掲載していない意見に
ついても、今後の愛知県の
教育の参考としていきます。

フィードバックって何？



みんなの意見をどのように受け止めて、
どう計画に反映したか、なぜ計画に反映し
なかったのかをお伝えすることです。

※以降のページに出てくる表記については、以下のとおりです。

- ・ 小：小学6年生
- ・ 中：中学3年生
- ・ 高：高校3年生
- ・ 特：特別支援学校生徒
 しえん
- ・ 大：大学生

意見聴取の方法

Webアンケート

回答期間	2025年6月2日（月）～6月30日（月）	
実施方法	タブレット端末によるWeb回答	
回答者	小学6年生	3,003名
	中学3年生	3,143名
	高校3年生	2,718名
	特別支援学校生徒	333名
	大学生	98名 計9,295名
アンケート内容	<p>愛知県教育委員会では、これからの中学校教育をよりよくするための計画を考えています。学校に通っているみなさんの感じていること、考えていることを計画づくりの参考とするため、みなさんの考えを聞かせてください。</p> <p>○ 次の質問に答えてください。 (答えにくいものについては、答えなくてもかまいません。)</p> <p>Q1 今の学校生活（授業、先生、友だち関係、タブレット端末、ルール、給食、部活動等）がよりよいものとなるような意見や提案があれば教えてください。 また、その理由も教えてください。</p> <p>Q2 読書はした方がよいと思いますか？しなくてもよいと思いますか？ その理由も教えてください。</p> <p>Q3 あなたには、大人になってからも「学びたい」「活動したい」と思うことがありますか？ありませんか？その理由も教えてください。</p>	

ワークショップ[°]

実施日時	2025年8月9日（土）午前10時～正午													
会 場	愛知県白壁庁舎 しらかべちょうしゃ													
実施方法 じっし	<p>小学生から大学生が、4つのグループに分かれて意見交換をしました。</p> <table><tbody><tr><td>小学6年生</td><td>4名</td></tr><tr><td>中学3年生</td><td>4名</td></tr><tr><td>高校3年生</td><td>4名</td></tr><tr><td>特別支援学校生徒 しえん</td><td>2名</td></tr><tr><td>大学生</td><td>2名</td></tr><tr><td></td><td>計16名</td></tr></tbody></table>		小学6年生	4名	中学3年生	4名	高校3年生	4名	特別支援学校生徒 しえん	2名	大学生	2名		計16名
小学6年生	4名													
中学3年生	4名													
高校3年生	4名													
特別支援学校生徒 しえん	2名													
大学生	2名													
	計16名													
テーマ	<p>○ テーマ：これからの学校や教育について</p> <ol style="list-style-type: none">1 今の学校生活（校則、友だちや先生、授業について）がよりよいものとなるような意見や提案があれば教えてください。 また、その理由も教えてください。2 読書をすることについて、あなたが思うことを教えてください。3 人生100年といわれ、誰もが生涯にわたって活躍することが求められます。 あなたは、生涯にわたって学び、これからの社会をよりよくするには、どうしたらよいと思いますか。													

子供読書調査

回答期間	2025年7月1日（火）～7月18日（金）
回答方法	タブレット ^{たんまつ} 端末によるWeb回答
調査対象	県内すべての小学校（4～6年生）※義務教育学校前期課程を含む 県内すべての中学校（1～3年生） ※義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程を含む（夜間中学は除く） 県内すべての高等学校（1～3年生） ※中等教育学校後期課程及び高等専門学校を含む（定時制・通信制は除く）
調査項目	<p>（1）読書が好きな子供の割合について （2）読書嫌い（好き）の理由について （3）1か月以上で読んだ本（電子書籍を含む）の冊数について （4）不読の理由について （5）マンガ、雑誌の利用度について （6）学校図書館の月間利用回数について （7）学校図書館に期待する役割について （8）公立図書館の月間利用回数について （9）公立図書館に期待する役割について （10）幼少期の読み聞かせ経験度について （11）読書関係行事への参加頻度について （12）読書の目的意識について （13）不読改善の方法について</p> <p>】 P31に掲載</p>

フィードバック

子供の意見聴取に関すること

主な意見

■子供の意見聴取

小：子供の意見を^{きいて}ほしい。

高：理由のないルールが多すぎる。
しかも、学校や教育委員会からのアンケートで意見を書いても、よくなつたためしがない。

こう受け止めました

子供の意見を聴いてほしい、アンケートに答えるも改善されたことがないと感じている子供がいることがわかりました。

各学校においても、子供たちの声を聴く機会を設けること、フィードバックすることで、よりよい学校になると考えました。

子供たちにとってよりよい学校生活を実現できるよう、計画に反映します。

反映したところ

P25

③ 人権教育の推進

各学校において、子供たちの声を聴く機会を設け、よりよい学校運営に努めます。

学校のルールに関するここと

主な意見

小：日焼け止めを持っていきたい。

小：家から本を持ってきて読みたい。

中：エアコンが効いている時に長袖を着てはだめなの
はおかしいと思う。^{ながそで}

中：ポニーテールはよいのに、おだんごがなぜだめな
のかわからない。

高：ブレザーの上からしか防寒具を着てはだめ等、意
味のわからないルールが多すぎる。

高：先生だけで決めるのではなく、もっと生徒の意見
を取り入れられるとよい。

特：校則をもっと過ごしやすいように改善する。

大：考え方方が古すぎる校則は生徒が納得できないため、
時代に沿ったものを考えるといい。

大：防寒具の規定が男女で異なるのは非合理的である。

大：女子だけ学校指定の800円の靴下でないといけな
かった。^{くつした}

小：学校で決められているルールをきちんと守る。
(右側通行、廊下を走らないなど) 理由は、ルール
を守るとみんなが気持ちよく学校生活を送れたり、
怪我等がなくなるから。

こう受け止めました

「なぜその校則が必要なのか
わからない」「時代に合わない
と思う校則が多い」という意見
がたくさんありました。

ワークショップにおいては、
先生と生徒の対話を求める声が
印象的で、子供たちが校則の意
味を理解したり、校則等のルー
ルと一緒に考えたりする機会が
少ないのでと考えました。

校則の策定や見直しの過程で
子供たちが関与することは、自
ら校則を守ろうとする意識を高
めることにつながるとともに、
身近な課題を改善する経験とな
る等、教育的な意義があります
ので、取組を推進するよう、計
画に反映します。

反映したところ

P26

④ 主権者教育の推進

集団生活、学校におけるルールについて、
教員と児童生徒が一緒に考える機会を設け、
ルールの見直しに児童生徒が関与する取組を
推進します。

授業に関するこ

主な意見

■授業の方法

高：主体的に参加して取り組むことが多い授業をもっと受けたい。^{ねむ}眠くなりにくいし、学ぶことの楽しさをより感じられる気がする。

大：もっと子供主体の授業にするべき。授業をやらされている感で受けていると、全然頭に入ってこないから。

中：自分で考える授業を入れてほしい。

中：生徒自身に説明させる時間が必要だと思う。そうすることで、本人の理解にもつながる。

小：授業は話す力につけるためにもチーム体系がいいと思う。

中：授業ディベートをしてほしい。思ったことのない意見を聞けるのが楽しい。

こう受け止めました

授業に対して意欲関心が高い子供が多く、もっと主体性を持って授業を受けたい等、学びに対してより高い意識を持っている子供が多いことがわかりました。

授業をよりよいものにするためには、ただ聞いているだけではなく、一人一人が積極的に取り組み、クラスメイトと活発な意見交換^{こうかん}をすることが大切だと考えているので、計画に反映します。

反映したところ

P7

① 探究的な学びの推進

子供たちが、自ら課題を見つけてねば 粘り強く追究し、仲間と話し合って自らの認識を新たにしたり、情報を精査して考えを形成したりするなど、創造性豊かで探究的な学びを推進し、一人一人の可能性を最大限に引き出し、伸ばします。

授業に関するこ

主な意見

■授業の時間

小：授業の時間を短くしてほしい。
高：長くて集中できないため、授業時間も短くしてほしい。



こう受け止めました

学校の授業は、その時間で身に付けてほしいこと、考えてほしいことを一授業時間で達成できるように設定されています。そのため、授業時間を短くすることは難しいので計画には反映できませんが、授業時間の長さだけではなく、その時間に何を学ぶかを大事にしてほしいです。

■宿題

小：もっと宿題を減らし/増やしてほしい。
中：自主学習を促すためには、課題以外の方法も有効であるため宿題は必要でないと感じる。



宿題は、じょうきょう授業での学習状況等に応じて担任の先生が考えています。

宿題が多すぎるのは良くないですが、一方で宿題には自分で勉強する習慣を身に付ける、決められた期限を守るなど、大人になっても必要な力を身に付ける目的があります。

そのため、一律に宿題を減らす、増やす、なくすことはよくないと考え、計画には反映していません。

■将来使わないもの

小：将来使わない算数の計算や、持久走大会をなくしてほしい。



例えば、算数を使うとお店の売上を分析ぶんせきできるし、持久走で鍛えられる力がつくと、日常生活や勉強でも体力に余裕よゆうが生まれます。

学校で学ぶことは、みなさんの成長を考えて決めており、算数や持久走は必要だと考えています。今は将来使わないと思っていても、何かの役に立つと思って取り組んでいれば、実際に将来役立つことが多いと思います。

友達に関するここと

主な意見

小：暴言を言わないでほしい。

小：友達にきつく言われると傷つく
ので、優しい言葉を使うべきだと
思う。

中：私の中学校でも暴言や悪口、陰
口等の冗談やいじめがあるので、
やっていることの重要さを教える
教育をした方がよい。

特：生徒同士でうるさくからかった
り、悪口を言ったり暴力をしない
ということが大切だと思う。

大：いじめの問題をもっと徹底的に
改善すべきだ。改善していると
言っているにも関わらず、年々自
殺者が増えているから。

こう受け止めました

友達との関係について悩んだり、
悪口やきつい言葉によって、傷つ
いた経験をする中で、いじめの問
題について、もっと真剣に取り組
み、改善してほしいと感じている
子供が多いことがわかりました。

子供たちがお互いに思いやりの
心を持ち、楽しく学校生活を送っ
てほしいと考えているため、積極
的に道徳教育やいじめ防止対策に
取り組み、学校全体で子供同士が
より楽しく、よりよい環境で過ご
すことができるよう、計画に反映
します。

反映したこと

P23

① 道徳教育の充実

「よりよい生き方を実践する力を育
む道徳教育の推進事業」に取り組む研
究推進校を中心とした、道徳教育を推
進するとともに、その成果をWebサ
イトに掲載して、県内に広く還元しま
す。

P24

② いじめ防止対策の充実

日常の自治的な活動や社会体験・生
活体験を通じて、他者の気持ちを共感
的に理解し、お互いの人格を尊重する
態度を養い、児童生徒の社会性を育み
ます。

関係機関で構成する愛知県いじめ問
題対策連絡協議会における検討を踏
まえ、いじめ防止対策の一層の充実を図
ります。

先生に関すること

主な意見

■先生の人数に関すること

小：授業の先生を2人になるとよいと思う。その方がわからないことを聞きやすい。

小：先生が1人では大変だし、採点に時間がかかるので、授業では先生を2人にしたほうがよいと思う。

小：1つのクラスに先生を2人にすれば、1人が授業をして、授業を止めずにもう1人がわからない児童に教えることができる。

中：1クラスに先生が2人いるとよい。

大：教員希望の大学生をアルバイトとして雇い、先生の人手不足解消につなげるべきだと思う。子供にとっても自分たちと年の近い親しみやすい先生がいるのは魅力的だと思う。

こう受け止めました

授業でわからないことを聞くために、先生を2人した方がよいと、複数の意見をもらいました。

また、大学生の活用についての意見もらいました。

お金が必要なので限りがありますが、先生を今より多く配置していくよう、計画に反映します。

反映したところ

P8

③ 少人数教育等、学びの環境の充実

中学校における35人学級の早期実現を目指すとともに、チーム・ティーチングなどによる少人数指導、小学校の教科担任制を推進します。

小中学校において、特別非常勤講師や社会人講師、退職教員や大学生など、多様な外部人材を活用した学習のサポートが行えるよう、市町村教育委員会と協力して学びの環境の充実を図ります。

先生に関すること

主な意見	こう受け止めました	反映したところ
<p>■先生の働き方のこと</p> <p>小：毎日大変なので、先生を増やしてほしい。</p> <p>中：先生の労働時間の改善が必要だと思う。勤務時間過ぎて働いている先生が大半なので、チーム担任等を導入して負担を減らすべきだと思う。</p> <p>高：将来高校教師になりたいので、労働環境をよくしてほしい。過去、労働環境に対する不満を言う先生がいたので、このままだと教員志望者が減ってしまい、問題だと思う。</p> <p>高：教える側が疲弊しストレスを溜めていてはよい授業はできないと思うので、先生方の働き方を改善した方がよいと思う。</p>	<p>子供から見ても、先生の働いている時間が長く、労働環境の改善が必要であるという考えが多いことがわかりました。</p> <p>また、教員志望の子供が、現在の先生の働いている環境に大きな不安を感じていることもわかりました。</p> <p>先生の働き方改革が推進されるよう、計画に反映します。</p>	<p>P44 ③ 学校における働き方改革の推進</p> <p>教育の質の保証の観点から、教員が教員でなければできない業務に専念できるよう、優先順位を定めながら、大胆な業務の削減や平準化を行います。</p>

先生に関すること

主な意見

■先生の給与^{きゅうよ}に関するこ

小：先生の給料をもっと上げてほしい。
かわいそうに思う。

中：先生の給料が上がれば、教職に就く
人が増えると思う。

高：先生の給料を上げてほしい。^{きくしゅ}搾取だ
と思う。また、教育関係の予算を増や
してほしい。そもそもお金がなければ、
やれることは限られると思う。

※搾取とは
不^{おさ}当に賃金を低く抑えたり、長時間労
働を強いる際に表現される言葉。

こう受け止めました

先生の給料を上げてほしいと、
先生を身近で見ている小・中・
高校生から意見をもらいました。
優れた教職員の確保は大切な
ことだと考えているので、先生
の給与改善が図られるよう、計
画に反映します。

反映したところ

P43

① 優れた教職員の確保

「公立の義務教育諸学校等の教育職
員の給与等に関する特別措置法等の一
部を改正する法律」を踏まえ、教職調整額の基準となる率について、給料月額の4%から10%への引上げ（2026年1月から毎年1%ずつ段階的に引上げる）や、校務類型に応じた義務教育等教員特別手当の支給により、教員の待遇改善を図ります。

先生に関するこ

主な意見

■先生との関わり方に関するこ

小：先生が怒るときになんてこうなったのかを聞いてほしい。悪くないのに怒られるから。

中：先生への意見を気軽に伝える場を作れば文句が減る。人の意見をまともに聞かなかったり、理不尽に怒ったり嫌みを言う先生がいる。

高：授業中に答えがわからないと答えているのに、何度も質問するのはやめてほしい。

わからないと答えた後も、しつこく質問してくる先生もあり、授業中、とても恥ずかしい思いをする。

特：授業でわからないところがあった時に教えてくれない先生がいる。

高：指導に際して、何がだめなのかを伝えられない教員は生徒を指導する立場にないと思う。何がだめなのかを的確に伝えて生徒自身に気づかせ、改善を促すのが指導の本質であり、抑えつけるのは生徒の成長につながらない。

高：もっと親身に寄り添って理解をしてくれる、気軽に相談できる先生が常にいるようにしてほしい。担任だと言いにくかったり、わかってもらえないことがある。自分のタイミングで話ができ、理解してくれる人がいれば、少しは気が楽になると思う。

中：先生ともっと関わる時間がほしい。

こう受け止めました

子供たちに寄り添った対応や、子供たちが理解できる説明をきちんとしてほしいと考えていることがよくわかりました。

ワークショップにおいても、「自分たちの気持ちに寄り添ってほしい」「もっと先生と生徒の対話を増やしてほしい」という意見が多く出されたことから、子供たちが先生とより話しやすい関係を築き、お互いに理解し合うことを求めていることがわかりました。

先生の熱心な指導も、子供に理解されないままでは不満の残るものとなってしまいます。

このフィードバックを各学校にも周知し、先生が授業のあり方について考えていく機会とします。

相談に関するこ

主な意見

■アンケート

中：生徒の悩み事に早く気づき、
いじめ等に早急な対応ができる
ようにするため、悩み事についてのアンケートを毎月行うとい
いと思う。

特：いじめがあるかどうかのアン
ケートを1か月に一度匿名で行
うことで、いじめ対策になると
思う。

こう受け止めました

いじめ等の悩み事は、アンケートの方
が伝えやすいと考えている子供がいるこ
とがわかった。

アンケート調査を実施することに加え
て、子供が大人に訴えやすい雰囲気とな
るよう、計画に反映します。

反映したところ

P24

② いじめ防止対策の充実

いじめの実態を把握するため、
I C Tを活用した定期的なアンケ
ト調査や教育相談、保護者を対象と
したアンケート調査を実施し、日頃
からいじめを訴えやすい雰囲気を醸
成します。

相談に関するここと

主な意見

■相談相手について

小：親に言わなくてもカウンセラー等の先生に相談できるルール等がほしい。親になかなか言えない人や、担任の先生に言いにくい人もいるため。

高：高校では友達関係の悩みを気軽に相談できる大人がない。担任との交流も中学に比べたら少なく、スクールカウンセラーに相談したいと声を上げるのもハードルが高い。相談できる友達がないとしんどいので、先生等への相談のハードルを下げられるとよいと思う。

こう受け止めました

スクールカウンセラーに相談する際に、保護者が担任の先生に言わなくても相談できるようにしてほしいと考えている子供がいることがわかりました。

子供たちが悩んだときの相談相手には、身近な友達や保護者、先生等が挙げられますが、中には保護者や先生には言えない悩みをスクールカウンセラーに相談したいと考えることもあります。

スクールカウンセラーが全員の悩みに対応することは難しいので、まずは身近な相談相手に頼ることができます。たよるようになるとよいと思いますが、保護者や担任の先生に言わなくても、保健室を通じてスクールカウンセラーに相談できることや、24時間電話相談、SNS相談があることを子供たちに伝えます。

また、相談体制が充実するよう、計画に反映します。

反映したところ

P28

② スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携

スクールカウンセラーの、小中学校、県立学校への配置拡充に努め、専門性を生かした相談活動を一層推進するとともに、予防的な取組やいじめ不登校対策委員会での助言を活用するなど、校内の教育相談体制の充実を図ります。

24時間電話相談やSNSを活用した教育相談窓口の周知を徹底し、悩みを抱える児童生徒に対する相談体制の充実を図ります。

部活動に関するここと

主な意見

小：時間を増やして/短くしてほしい。
小：復活させてほしい。
小：種類を増やしてほしい。
中：なくしてほしい。
中：時間を増やしてほしい。
中：顧問以外に外部コーチを雇ってほしい。様々な人の意見を自分なりに解釈して考えて動くことが大切だと思うから。
中：先生がいなくても部活動ができるようにしてほしい。部活動がないと楽しみが減り、先生の負担が増えてしまう。
高：部活動は積極的にやるべき。部活動を通じて、よいこともよくないこともたくさんのこと経験できた。
高：部活動を他校と合同でやりやすくする。顧問の先生も分担できるし、仲間が増えたほうが刺激を与え合えてよいと思うから。

こう受け止めました

部活動について、子供たちが年齢を問わず様々な思いを持っていることがわかりました。
また、先生の働き方改革も含めて、これから部活動について真剣に考えていることもわかりました。
子供たちが将来にわたって継続的に運動・スポーツや文化芸術活動に親しむ機会を確保できるよう、計画に反映します。

反映したこと

P38
③ 部活動の地域展開の推進
将来にわたって継続的に運動・スポーツや文化芸術活動に親しむ機会を確保するため、部活動の地域展開等を進め、地域全体で支えていくよう、市町村が参加する協議会で先進事例を紹介するなどの支援をしていきます。

給食に関するここと

主な意見

- 給食に地元の食材を入れてほしい
小：給食に郷土料理を出してほしい。
小：給食にご当地の食材を使用したメニューを出してほしい。
高：地域や県によって量も献立も違こんだて ちがむしょうかうので給食の無償化が大事だが、まずは栄養がしっかり取れた地産地消になる食材を使うなど、地域差のない給食にしたらいいと思う。

こう受け止めました

給食に対して様々なアイデアや期待を持っていることがよくわかりました。給食は、単にお腹を満たすだけではなく、食育の場であり、地域とのつながりを深める機会でもあります。給食の献立に郷土料理や地元の食材を積極的に取り入れ、地域の食文化を学ぶ機会としながら、栄養バランスのとれた給食を提供できるよう、関係する方々と連携して検討を進めていくことが重要だと改めて感じました。子供たちの声を参考に、よりよい給食を目指していくよう、計画に反映します。

反映したこと

- P42
③ 学校等における食育の推進

専門研修の実施による教職員の食育推進体制を充実させるとともに、地域食材の活用と家庭での地場産物・郷土料理の啓発に取り組みます。また、体験学習等による地域食文化の継承機会の充実、多様な食文化・習慣への理解促進を図ります。

給食に関するこ

主な意見

■給食の量について

小：給食の量を増やして/減らしてほしい。

小：先生によって、給食が減らせるとか、減らしたらダメ等をなくしてほしい。

中：給食の量を減らしてほしい。残す人は残すので、残飯が増えてしまう。おかわりする人もいるが、無理に食べているかもしれないという心配感がある。

特：給食をみんなが食べられる量にする。多いと食べられない可能性がある。

■給食の好き嫌い

中：給食にきのこを入れないでほしい。

小：牛乳が嫌いで飲めない人もいるし、消化吸収があまりできない人がいるから、お茶にしてほしい。

小：給食を好きなものを指名して食べたい。栄養はとれないけど食品ロスは減らせる。

小：週に1回カレーがいい。

小：週に1回きなこあげぱんがいい。

こう受け止めました

給食の量については、量が多ければ最初に減らし、少なければおかわり等をして調整できることが多いと思います。

しかし、学校やクラスによってはそういった配慮がされていない可能性がありますので、しっかり先生たちへ周知していきます。

子供たちには、給食の時間に楽しく、よりおいしく食べることができるよう、担任の先生に相談しながら適切な量を食べてほしいと思います。

きのこには、日常生活の中でとりにくい食物繊維が多く含まれているため、給食には欠かせない食材です。

また、牛乳には日本人に不足しがちなカルシウムが多く含まれており、消化・吸収されやすいです。

学校給食は、栄養バランスを考え、子供たちにいろいろな味・おいしさを知ってほしいという思いで作られているので、全部食べてほしいですが、体質等で食べてはいけないものがある場合は必ず担任の先生に申し出てください。

これからも子供たちの健康のために給食の献立を考えていきます。

給食に関するこ

主な意見

■給食の時間を長くしてほしい

小：給食の時間を延ばした方がいい。時間があればたくさん食べることができ、余る給食が減って食品ロス防止にもつながる。

中：もっと余裕を持って食べたい。

特：給食の時間が短いため、いつも味わって食べることができない。このままだとごはんのありがたみを忘れてしまう人が増えると思う。

■給食の無償化について

小：お米の値段が高騰^{こうとう}していて給食が高くなっているので安くしてほしい。

小：給食費を無料にしてほしい。

■高校でも給食を食べたい

高：高校も給食を食べられるようにしたほうがよいと思う。受験生になってから親にお弁当を作つてもらうようになったので、親の負担になるのが申し訳ない。

こう受け止めました

給食の時間は、子供たちの成長にとって大切な時間です。子供たちの意見をしっかりと受け止め、検討していきたいと思います。

例えば、配膳方法を工夫することで準備にかかる時間が短縮され、会食時間を確保できるかもしれません。

子供たちの声を大切にし、より豊かな給食の時間を実現できるようにしていきます。

現在、国において、2026年4月から公立小学校の給食費の負担軽減に向けて検討を行っています。

高校生になると勉強や部活動で忙しくなり、保護者にとってもお弁当作りは負担になることがあります。

全日制高校への給食導入は、様々なメリットがあると考えられますが、費用や運営面等の制約から難しい状況ですので、民間業者を活用した昼食の提供に取り組んでいます。

ＩＣＴの活用に関すること

主な意見

■タブレット端末の活用について

小：タブレット端末を使った学習や調べ学習の頻度を増やした方がいい。

高：タブレット端末を使用した授業を増やした方がよいと思う。

中：タブレット端末で問題を解くのは、書き込めなくて覚えにくい。

中：定期試験にタブレット端末を活用すればいいと思う。忘れ物防止、センシング防止等様々なことが便利になる。

中：タブレット端末を使用し運動のフォーム修正等に活用したい。

こう受け止めました

タブレット端末をもっと積極的に授業や授業以外でも活用すべきという声が多くある一方で、従来からのノートや鉛筆を活用した勉強方法が好きという声もありました。

今後、タブレット端末をより効果的に活用できるよう、計画に反映します。

反映したところ

P13

① 情報活用能力の育成

児童生徒がＩＣＴを活用し、情報の収集、整理、比較、発信、共有等を行うことができるよう、教科指導に限らず学校行事などにおいても情報活用能力を育成します。

ＩＣＴの活用に関するここと

主な意見

■情報モラル、情報セキュリティについて

小：勝手にゲームをしていたり漫画を読んでいたりする人がいるので、もう少し厳しくした方がよいと思う。

中：休み時間に授業と関係ないゲームをやったりする人がいるので、見直しが必要だと思う。

高：制限が厳しすぎて授業や宿題等で調べたいものを調べられない。自分で使っていいサイトかどうかを判断することも必要だと思う。

大：タブレット端末を子供に使用させる前に、ネットの怖さ等マイナス面をしっかり教えることが重要だと思う。

こう受け止めました

タブレット端末の活用はよいですが、ゲームをしたり、漫画を読んでいたりするなど、学習以外の目的で使用する人もいるため、もっと使用を制限することが必要という意見がありました。

一方、インターネットの接続制限が厳しすぎることによって調べたいことを調べられず、困るという意見も多くありました。

また、インターネットで視聴できるものの中には、違法なものが含まれている可能性もあり、情報を活用する場合には、著作権への配慮が必要です。こうしたことから、タブレット端末はルールを守って使用することが大切です。

情報モラルや情報の取扱いに配慮しながらより適切な活用ができるよう、計画に反映します。

反映したこと

P14

④ 情報モラル教育の充実

児童生徒の情報モラルを向上させるため、発達段階に応じて、情報発信による他者や社会への影響、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味、不用意な情報発信により著作権を始めとした他者の権利を損ねる場合があること、情報には誤ったものや危険なものがあることなど、自らの行動等を考える学習を、関連機関と連携した出前講座等も行いながら推進します。

ICTの活用に関するここと

主な意見

■健康について

中：使いすぎは目が悪くなる可能性がある。

高：タブレット端末たんまつを使用すると目が痛くなる。

■通信環境について

中：回線が悪くてつながらない時があるので、ネットワーク環境をよくしてもらいたい。

高：ネット環境が悪かったり、キーボードが動かなかったりすることがよくあるので、改善してほしい。

こう受け止めました

タブレット端末を使うことによる視力の低下等、健康への不安を感じているという意見が多くありました。

少しでも身体への悪影響等の心配が減るよう、計画に反映します。

反映したところ

P42

② 健康教育の推進

文部科学省が作成した「児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック」を活用するなど、健康面への影響えいきょうについて児童生徒、保護者に向けた啓発けいはつ及び教員研修じゅぎゅうを実施します。

P48

③ ICT教育に係る環境の整備

1人1台端末に対応した通信回線の整備やプロジェクタ等の配備、デジタル教科書・教材等の導入など、国や最新技術の動向を踏まえた最適なICT環境を整備します。

学校施設に関するこ**と**

主な意見

■トイレに関するこ**と**

小：トイレをすべてきれいにしてほしい。

小：校舎外のトイレをきれいにしてほしい。さび汚くて入れない、うすぐら薄暗くて怖い。

中：トイレが古くて不衛生なので変えてほしい。

中：トイレが臭くさいから新しくしてほしい。

高：トイレ数をもっと増やして洗面台をきれいにしてほしい。

特：トイレをすべて洋式にしてほしい。

こう受け止めました

学校の古いトイレは、子供たちが汚い、暗い、怖い、臭いと感じており、トイレに行きにくいという声がありました。

また、多くの子供がきれいなトイレを望んでおり、学校生活の中でもトイレの環境が大切だと感じていることがわかりました。

学校のトイレをきれいに整備していくことができるよう、計画に反映します。

反映したところ

P45

① 学校施設・設備等教育環境の整備及び充実

県立学校の長寿命化改修に合わせ、整備済みの管理棟・かんりとう普通教室棟ふつうしきょうしどう以外のトイレの洋式化・乾式化を進めます。

市町村立学校における施設整備について、国庫補助率や補助単価の引上げ等、財政措置の充実を図るよう国に要望していきます。

学校施設に関するこ^{じせつ}と

主な意見

■エアコンに関するこ

小：体育館にエアコンをつけてほしい。夏に体育館で体育をすると暑くて頭が痛くなることがあった。

中：エアコンがない特別教室にも早くエアコンをつけるべきだと思う。生徒はもちろん、担当教科の先生も暑く、熱中症になる可能性がある。

高：部活動を行う体育館が暑いので、エアコンをつけてほしい。

特：夏は暑くて熱中症になる可能性があるため、体育館にエアコンをつけてほしい。

こう受け止めました

多くの子供からエアコンの設置についての意見をもらいました。年間の猛暑日は観測史上最多を更新しており、エアコンが設置されていない体育館や特別教室での活動に、熱中症の危険を感じていることを改めて確認しました。

子供たちの学習環境はもちろん、授業をする先生の環境を良くするためにも、子供たちの声をしっかり受け止め、環境改善のために計画に反映します。

反映したところ

P45

① 学校施設・設備等教育環境の整備及び充実

県立高等学校の体育館・武道場に空調設備を設置します。

県立高等学校特別教室などへの空調設備の整備を検討します。

市町村立学校における施設整備について、国庫補助率や補助単価の引き上げ等、財政措置の充実を図るよう国に要望していきます。

登下校に関するここと

主な意見

■学校の登校時間

中：登校時間を遅くしてほしい。寝不足になり、授業で眠くなるなど悪循環だから。

高：通勤ラッシュ時の電車がしんどいので、学校ごとに登校時間を少しづらして登校できると嬉しい。

特：登校時間が早いので、もう少し遅く行きたい。

こう受け止めました

公共交通機関の混雑を避けたいなどの理由で、登校時間をずらしてほしいという意見をもらいました。時間割だけでなく、先生の勤務時間にも影響するので変更は難しいことが多いと考えますが、各学校において子供の意見を聞く機会を設け、よりよい学校運営に努めるよう、計画に反映します。

反映したところ

P25
③ 人権教育の推進

各学校において、子供たちの声を聞く機会を設け、よりよい学校運営に努めます。

登下校に関するここと

主な意見

■通学団・通学路に関するここと

小：登下校は仲のいい子としたい。

小：通学団をなくしたい。

小：通学団を無しにして別々に帰りたい。帰る時間も早まるし、団ノートも書かなくてすむから。

小：通学団をなくしてもよいと思う。時間に遅れても通学団で一緒に子に迷惑がかかるないし、時間に間に合う程度で自分のペースで歩けるから。

小：通学路を自由にしてほしい。

こう受け止めました

通学団は、集団で登校することにより、防犯上・交通上の安全を確保することを目的としています。

また、登下校中のトラブルや犯罪を防ぎ、安心して学校に通えるよう、通学路を定める必要があります。

それぞれの学校の状況に応じた通学のルールで登下校してください。

防災に関するここと

主な意見

中：スリッパではなく上履きにしてほしい。スリッパは脱げやすく、階段を登る際に脱げて怪我をしてしまったり、災害時に逃げ遅れる危険性がある。

中：スリッパは変えてほしい。避難訓練の際、脱げてしまいそうで避難が遅れてしまうと感じた。

こう受け止めました

スリッパは靴に比べて脱げやすく、特に災害時はスリッパでは逃げ遅れる可能性があり、危険だと考えていることがわかりました。

この声を受け止めて、まずは、県立学校においてスリッパから靴へ変えることを推奨するよう、計画に反映します。

反映したこと

P46
③ 学校安全体制の充実

県立学校においては、災害時の安全確保のため、児童生徒が校内で履いているスリッパを、避難しやすいよう靴に変えることを推奨していきます。

地域との交流に関するこ

主な意見

小：地域との交流を増やすのがよいと思う。地域の人と仲良くなることで、地域がよりよくなると思う。

小：いろいろな人と交流をする機会を増やしてほしい。理由は、小さいころからいろいろな人と交流していたら、大人になった時に社会に溶け込めると思ったから。

小：災害が起きた時に頼ることができるようになるため、地域の人と関わる機会を増やした方がいいと思う。

こう受け止めました

子供たちが、地域の活性化や災害時における助け合いのことを考え、地域の方々ともっと多くの交流をしたほうがよいと考えていることがわかりました。

学校と地域がもっと交流の機会を得られるよう、計画に反映します。

反映したところ

P24

① 道徳教育の充実

世代や年齢を超えた交流、異校種間での交流等、学校と地域が協力した様々な体験活動を一層推進します。

P37

① コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の一体的推進

社会貢献意識、地域教育力、地域への愛着を高め、全ての地域の人々の生きがいとなるような活動を推進するため、地域学校協働本部の整備を進め、保護者や地域住民等と交流する機会を今まで以上に創出し、地域住民も学校運営に対して主体的に参画する体制づくりを支援します。

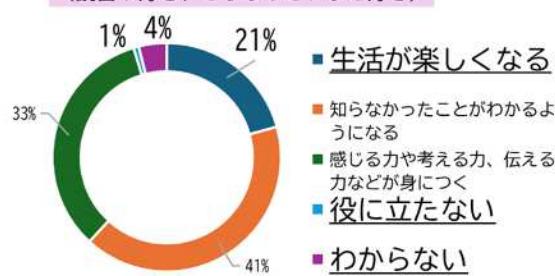
読書に関するこ

主な意見

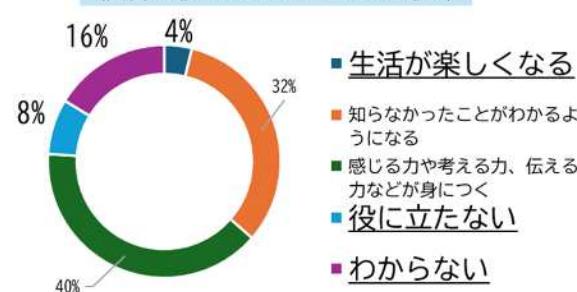
■読書に対する好き・嫌いの割合

※P6子供読書調査の結果

好き 74.8%
(読書が好き、どちらかというと好き)



嫌い 25.2%
(読書が嫌い、どちらかというと嫌い)



こう受け止めました

今回の計画を策定するにあたり、県内の子供にアンケートを実施しました。

読書が好きな割合は74.8%、読書が嫌いな割合は25.2%でした。

なお、「本を読むことは何の役に立つと思うか」という質問に対して、「生活が楽しくなる」「役に立たない」「わからない」と答えた割合に、読書が好きな子供と嫌いな子供では大きな差がありました。

また、1か月に1冊も本を読まない子供の割合は、読書が好きな子供では15.0%、嫌いな子供では46.1%でした。

そのため、読書が好きな子供を増やす取組を進めることを計画に反映します。

反映したところ

P36
子供の読書について

読書に対する楽しさや意義を子供の頃から感じることが大切であるため、本県では、本に触れる機会の充実や、ビブリオバトルなどを通して読書に親しむ心を育んでいきます。

読書に関するここと

主な意見

■読書をした方がよいという意見

小：最近小説を読み始めたが、とても面白く、国語の授業にもなんとなくついていけるようになったから。

中：本は、基本的に客観的視点かつ、自分ではない者の視点で描かれるので、視点が広がり、語彙力を増やし、感受性を高める効果がある。

高：昔からよく本を読んだが、日常生活で役立つことがある。

高：幼いころから読書をしていたので現代文が得意になった。

高：^{ふだん}普段本を読まない人に読む機会を^{あた}与えるのは大事だと思う。

特：自分が知らなかったことが知れるし、自分から調べるという自立心・好奇心にもつながると思う。また、道徳心を高め、読み終えた後の達成感や知識も増える。

こう受け止めました

主な意見の他にも、「読書をすることで物事に対する考え方が広がり、人生が豊かになる」「登場人物の気持ちを考えながら読むと、国語や道徳が楽しくなる」等、読書が自身の世界観や価値観を広げてくれるという意見も多くありました。

昔は読書が好きではなかったが、興味がある本を読み始めたことをきっかけに、読書が好きになったという意見もあったため、学校で読書をする時間を設けるなど、読書が好きになるきっかけを作れるようにしていきたいと思います。

また、そのような取組の充実を図るよう、計画に反映します。

反映したこと

P34

② 読書に親しむ心の育成

子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけることができるよう、読書活動に関する^{しきく}施策を総合的に推進します。

絵本の読み聞かせや、^{いっせい}一斉読書、読書集会、読書週間等、就学前も含めた読書活動の充実を図ります。

読書に関するここと

主な意見

- 読書をしなくてもよいという意見
小：読んでも何の役にも立たない。
中：読んだところで成績が良くなる
わけでもないし、頭も良くなるわけでもない。
高：動画で学ぶ方が視覚聴覚も使え
て効率がいい。
高：語彙力・読解力が上がるなど、
具体的な成果を聞いたことがない。
高：あなた方の価値観を押し付けな
いでほしい。ただの趣味。
特：ネットで何でも検索できるので、
読まなくてもいいと思う。
大：高校生のときに朝読書の時間が
あったが、何かの役に立ったとい
う実感はなかった。

こう受け止めました

読書をしなくてもよいと考えている子
供は、読書の意義を感じておらず、価値
観を押し付けられていると思っており、
読書の有用性について、納得のいく説明
が十分にできていないことが伺えます。

ワークショップにおいても、「本を読
む目的がない」「つまらない」といった、
読書に対するネガティブな意見がありま
したが、自分の好きな本を見つけること
で読書への興味関心が生まれるなどの改
善案も話し合われ、読書に前向きな姿勢
を持つ可能性があるということもわ
かりました。

読書は強制されるものではありません
が、本だからこそ得られる力があること
や、成長過程の子供にとって、読書が重
要であるという科学的根拠を説明するこ
と等が有効だと考えます。

本に親しみ、読書することを前向きに
考えられるよう、計画に反映します。

反映したところ

P36
子供の読書について

国立青少年教育振興機構が2021
年に発表した「子どもの頃の読書活
動の効果に関する調査研究」では、
子供の頃の読書量が多い人は、自己
肯定感、客観的・多面的・論理的に
考える力、何事にも進んで取り組む
姿勢や意欲が高い傾向にありました。

読書をしなくてもよいと考えてい
る子供には、読書の大切さについて
子供が納得できるよう、根拠を示し
て説明する必要があります。

しょうがい 生涯学習に関するここと

主な意見

小：感性を育てる芸術鑑賞会や普段の成果を出せる大会等は、これからも続けていきたい。

地域や町をより活発にするために、まちづくりや奉仕活動に参加したい。

非日常的なイベント、例として交流会等、たくさんの人と出会い、交流を深めることができ、これから役立つ新しいことを学び続けていきたい。

情報モラルは小学生だけでなく、全ての人がずっと学び続けることが必要だと思うので、これからも情報モラルについて学びたいし、今の社会について深く知ることができるように、ニュース等の新しい情報を得ることは欠かせないと思う。

中：いろいろな国のドラマを字幕なしで見たいから、様々な言語を学びたい。

高：語学を勉強していろいろな国に行きたい。

こう受け止めました

大人になっても続けたい活動があるという意見や、興味関心があるものを学びたいという意見が多くありました。

これらの意見を受けて、生涯学習に関する情報を積極的に提供することを計画に反映します。

また、情報モラルについて、学び続ける必要があるという意見もありました。情報モラルや情報の取扱いについて、学校卒業後も学ぶ機会を確保できるよう、計画に反映します。

反映したこと

P33

① 生涯にわたって学ぶ姿勢の育成、学べる環境の充実

愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」において、市町村や大学、社会教育施設等が実施する生涯学習に関する情報を積極的に提供します。

P34

⑤ 学び直しの機会の充実

ICTリテラシーなどの今日的な課題について、学校卒業後も学ぶ機会が確保できるよう、社会教育関係者を対象とした研修等を通じて、取組の充実を図ります。

しょうがい 生涯学習に関するここと

主な意見

■大人になっても学びたいことがある

小：将来の夢は、小学校の先生になっていろいろなことを子供たちに教えられるようになりたい。

小：大人になっても学びたいことは福祉のこと。
将来の夢が車いすの方等が快適に暮らせるように研究することだから。もっと深く学びたい。

中：スポーツをやり続けたい。体育教師になるのが夢だから。

高：将来介護職に就きたいため、勉強したい。

高：世界が広がるので、英語等外国語を学びたい。

特：仕事に役立つことを学びたい。

■大人になって学びたいことはない

小：学ぶのは小学生から大学生の間だけでいいと思う。

中：もう学び疲れた。

中：将来のことを考えられない。

高：学びたいと思わないし、勉強はめんどくさい。

こう受け止めました

生涯学習については、子供にとっては想像しづらく、難しいと思われ、「分からぬ」「学びたいことがない」等、具体的な回答が少ない中、小学生でも将来の職業を見据えている子供は学びたいことが明確で、学校での学びがより意味のあるものになっていると感じました。

また、生涯学習は、子供が理解するのは難しいと大人が決めつけるのではなく、学校で話し合うことをきっかけに学ぶ意識が変わるものであると思います。

ワークショップにおいても、「生涯学習について考える時間がないので、よくわからない」という意見がありましたが、話し合うことで具体的な意見を出せるようになりました。このことから、学校でも生涯学習について話し合う機会が必要だと考えました。

子供たちが学校で生涯学習を考える機会を設けられるよう、計画に反映します。

反映したこと

P33

① 生涯にわたって学ぶ姿勢の育成、学べる環境の充実

総合的な学習の時間やキャリア教育に関する活動の中で、生涯学習について考える機会を設けます。